お互いを尊重し思いやる社会を願う

会長　水野　夏美

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、多くの皆さまにご理解、ご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

年頭に毎年、干支の話を書かせていただきますが、2026 年は午年。十干十二支で言うと「丙午（ひのえうま)」の年となります。丙は「炎のように燃え広がる火」、午も「真夏の火」を意味し火の力が重なる干支とされ、この年は、火の気が極まることで、エネルギッシュで情熱的、活発な運気を持つとされます。一方で、「気が強い女性が夫を食い殺す」という迷信があり、過去の「丙午」の年（昭和 41 年・1966 年）には出生数が減少したという歴史があります。もちろん、この言い伝えは医学的な根拠もありませんが、当時はその言い伝えを信じて、出産を控えた方が多くいました。

60 年を経て、今の時代にこの迷信を信じる人はどれだけいるのでしょうか。障がいのある人や生きづらさを抱えている人たちが皆、そういう思いをしている訳ではありませんが、時として社会から誤解や偏見を受けることと似ていると思いました。

誤解や偏見の元は、「知らない」ということではないかと思います。社会の中で、知的障がいがある人は「怖い」「独り言を言っている」「会話ができない」など一部を見てイメージして、丙午の迷信のごとく、そうであるかのように社会に浸透してしまう。しかし、何らかの体験で接した経験のある方は、「素直」「かわいい」「一生懸命」とその人の良きものを感じ、経験前後で印象のギャップを感じたことをお聞きすることがあります。相手を知ることで、自分の心の視野が拡がることはお互いにプラスになります。

私たちの子どもの良き個性も苦手なことも、その接し方も多くの方々に知っていただき、社会の中で誤解されている印象を払拭し、温かい目で見守ってほしいと願い立ち上げました立川キャラバン隊「ひこうき雲」の活動も 11 年目を迎えました。キャラバン隊活動の中で、「障がいのある人だけが支えられるのではなく、お互いに助けたり助けられたりしていること」「お互いを尊重し思いやること」などを伝えています。

障がいのある人が社会や世間に合わせるのでなく、社会全体が障がいや生きづらさを抱える人たちに自然に寄り添っていくことで、お互いが住みやすい優しい街になっていくことを信じて、今年も「知っていただく種まき活動」を仲間と一緒に進んで参ります。

人手や社会資源の不足、制度の充実に向けてなど、課題も活動も山積みですが、会員の皆さま、今年もできる人ができる時に無理なく協力し合い、ウマ（馬）く連携し、力を合わせ、百万馬力で元気に楽しく進んでいきましょう！！

一緒に手をつないでいける仲間も心よりお待ちしております！

末尾になりますが、賛助会員、行政や関係機関の皆さま、本年もご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。